

令和5年度 京都府立洛東高等学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン) (最終段階)

令和6年3月21日

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)			
<p>めまぐるしく変化していく社会の中で、変化を前向きにとらえて主体的に行動し、夢と希望を持って自立的に未来を切り拓いていくための知識・技能及び、変化に対応する力を身に付ける。</p> <p>◎「洛東高校生」としての誇りを持ち、自らに人間的成長を図る生徒の育成 ◎自己の将来を展望し、目標達成に向け何事にも意欲的・探究的に取り組めるための支援の推進 ◎知識・技能に加えて学ぶ意欲や思考力・判断力・表現力等を確実に育むために主体的・対話的で深い学びの推進 ◎様々な行事や体験活動、部活動を通してソーシャルスキルを身につけ、公共心や他者を思いやる心など、豊かな人間性を育む ◎ICT教育の充実と、校務のICT化等の教育情報化の推進 ◎地域とともにある学校として、コミュニティスクールの取り組みを充実させるとともに、将来の社会の担い手として地域社会に貢献できる力を育む</p>		<p>・スクールポリシーの策定に向け、「洛東高校のグランドデザイン」を明確にし、教科・分掌の指導が一体となる体制づくりとともに、効果的な広報活動を展開する。</p> <p>・新学習指導要領に基づいて、授業デザイン、観点別評価の両面から、さらなる研修を進めるとともに、評価の観点を明確にした評価計画を作成し、指導と評価の一体化を図る。</p> <p>・ICTの利活用について、一人一台端末の効果的な活用に向けて各分掌が連携し進めるとともに、教科を超えた教材の研究や研修を進め、ICT教育の推進を図る。</p> <p>・学習習慣の定着、希望進路の早期決定と実現、基本的生活習慣(遅刻、身だしなみ、家庭学習・授業への取り組み姿勢等)について、教務部・進路指導部・生徒指導部が中心となって相互に関連付けを行い、一人ひとりに寄り添いながら、具体的でわかりやすい指導を学年部と連携して行う。</p> <p>・各学年の課題を明確にし、継続的・発展的な進路指導ができるよう、学年・教科と連携して具体的な仕掛けづくりを進めることで、自学自習の習慣を確立するとともに、自らの未来を具体的にデザインし、進路実現を図る体制を構築する。</p> <p>・持続可能な社会の構築の視点から環境整備・美化活動を推進するための取組を、美化委員会と一緒に進める。</p> <p>・スクールカウンセラーやSSW、外部の諸機関と連携し、様々な課題を抱える生徒への対応を進める。</p>	<p>『 寄り添い 育て 鍛え 送り出す 』</p>			
			進路指導 『入学当初から・定期的継続的に・視野を広げる情報提供・内定後指導』		学習指導 『授業を大切に・公開授業充実・個に応じて・観点別評価・希望進路に照らして』	
			学校行事 『生徒主体・多様な人とつながる・自己肯定感・生きる力を育む』		特別支援 『情報共有・家庭・関係機関との連携・個に応じて・日常観察』	
			ICT活用 『校内研修の充実・教材開発と共有・他校連携・チャレンジ』		生徒指導 『褒める・生徒の自主性や主体性を引き出す・温度差のない指導』	
			部活動 『積極的な部活動参加・活動を通じた人間力の育成・学校の中心的存在』		広報活動 『全校体制で・HPの充実・SNSの活用・在校生や卒業生の活躍を紹介・出身中学校へのアプローチ』	
評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
			中間	最終	総合	
教育課程 学習指導 (教務部)	主体的に学びを深め、基礎学力を向上させるための実践的な研究を重ね、「やればできる」という自信と自己肯定感を高めるとともに、学習習慣の定着と多様な進路実現に繋がるような学習指導を行う。	1・2年生では新教育課程の本格的な実施にともない、また、3年生は来年度からの実施を見据え、授業デザインや観点別評価のあり方について検討を重ねる。	C	B	B	○年度当初に、観点別学習状況評価について研修会を行い、評価方法や評価のカットライン、課題等について、情報共有を行うことができた。また、日々の授業や教科会議等においては、観点別学習状況評価の在り方について、教科としての専門的な視点から議論したり、より生徒の実態に近く、「指導と評価の一体化」を念頭に置いた評価となるよう意識を高めていただくことができた。しかし、評価について実際の運用状況を踏まえて次年度も引き続き検討していく必要がある。 ○公開授業週間を6月と11月の年2回設定し、また、教科内で最低でも年1回は研究授業を実施するなど、授業改善や授業力向上に繋がる機会を担保することができた。今後は、例えば、公開授業週間ごとにテーマを設定したり、授業見学时に重視する視点を共有したりするなど、事後研における議論をもとに授業力向上がなされるようしくみを整えていく必要がある。また、可能な限り多くの先生方に参観を依頼し、授業者と参観者双方にとっての授業改善に繋がるように取組を進める。さらに、実際の授業を通じて、具体的な評価方法や規準を収集し、更に指導と評価の一体化を推進していく。
		観点別評価の充実に係る各種資料の共有や研修等を行い、生徒の学習に対するモチベーションや基礎学力の向上に繋がる、指導と評価が一体化するような実践を進める。	C	C		
		教科の枠を超えて、研究授業や公開授業週間など、授業実践の研究や改善に繋がる機会を複数回設け、指導力向上のための一助とする。	B	B		
生徒指導 (生徒指導部)	基本的生活習慣の確立、規範意識の醸成を図り、主体的に行動できる態度を全教職員と協力して、育成する。	遅刻指導、装飾品指導、携帯指導、身だしなみ指導の件数を減らし、落ち着いて学習に向かえる環境を作り、自律できる力を育む。	B	B	B	○遅刻や装飾品指導等に関しては、昨年度と比較しても減少傾向にある。その一方で、常習的に遅刻する生徒が未だ存在し、単位認定に関わる生徒もいるのも事実である。指導に関しては、一人一人抱えている問題も異なり、成長する過程も違うことから、その生徒にあった課題を工夫し取り組ませた。生徒自身が自らの問題を主体的に考え、成長できるよう声をかけ対話を大切にしながら指導が行え、その後生徒自身も「見てもらっている」という感覚を持つようになり、そのことが、自己の振り返りにつながり、繰り返さないようになるケースも増えてきている。来年度に向けては、もっと先手が打てる指導が出来るように考えたい。 ○各行事を充実させ、生徒自身が他者から学べる環境作りに努めた。他者との違いを認めながら自分の意見を言えるような環境も作ることで、人権意識もしっかり育ませたいと考えた。行事等を通して、充実感や達成感から、他者と協力しながら自らも成長していく姿も見られ、行事後にも振り返りを行うことで、行事の存在意義の再確認もできている。また、活躍している大人を見たりすることで、自分の進路実現についても考えられているような意見も見られ、年間を通して、生徒の心の成長を感じられた。 ○行事等で人権意識の向上にも努めているが、人権学習としても本校生徒が直面し、または理解・共感しやすい内容であることを考え、講師等も活用しながら取り組んだが、不手際もあったため、来年度は分掌内での情報共有をさらに強化して、より良い学習環境作りに努めたい。 ○いじめに関しても、各担任のきめ細やかな聞き取りと声かけにより、大事にはならなかった。生徒指導部としてもこれまで通り、担任と密に連携し、生徒が安心・安全に学校生活を送れるよう努めたい。
		指導生徒の理解に努め、「発達支持的生徒指導」を有し、個々に合った生徒指導を実践する。	B	B		
	褒める機会の充実を図り、生徒の自己肯定感を高める取組を進める。	各行事への取組を通して、クラスや委員会におけるリーダーを育成し、自治力の向上を促す。行事後、「やりきった」と達成感を得られる生徒の割合を増やす。	B	A		
	いじめの未然防止、早期発見に努め、いじめが発生した際には迅速かつ適正に対処する。	いじめを許さない態度・能力を育成するために、人権学習を充実させ、日々のあらゆる教育活動を通じて自他の人権を尊重する指導を行う。 日常の生徒理解、いじめアンケート、面談等により早期発見に努め、発生した際には迅速かつ適切な情報共有、いじめ対策委員会を中心とした組織的な対応等を行う。	B	B		

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
			中間	最終	総合	
進路指導 (進路指導部)	3年生進学希望者の、希望実現率100%を目指す。	学年部・教科と連携し、学力実態・進路希望などの情報共有を図り、時期に応じて検討会を実施するなど、個々の進路に対応した入試対策指導を行う。	B	B	B	○生徒のニーズに応じた進路補習や面接講座を設定し、教科の協力を得て運営した。総合型選抜の受験者が近年増えているため、1学期から2学期にかけて志望理由書の添削や、面接指導に多くのエネルギーを費やした。今後この傾向が続くことは確実であり、効率的な指導をしていく必要がある。 ○夏の面談前に三進会(志望校検討会)を持つことが出来た。また、共通テスト後に出願検討会を実施した。 ○指定校推薦で四年制大学への進学が決定した生徒に、模擬試験の受験を課した。学びを止めるなどというメッセージであり、「合格がゴールではない」ということを強く意識づける必要がある。 ○進路部通信を今年度16号発行した。受験のしくみや面接、志望理由書対策の説明を行った。また、各種イベント後の感想文を掲載し、生徒同士が相互に刺激し合える環境づくりに努めた。 ○Classiを通して動画(学部紹介・受験勉強の方法・面接対策など)を紹介し、受験準備をサポートした。
		多様な入試に対応できるように、適切な進学補習講座・面接対策講座を設定し、定例で実施する。自学自習を基礎とした効果的な補習の在り方を工夫し、学力伸長を図る。また、志望理由書・小論文対策として、生徒に「書き方講座」の受講、小論文模試の受験を課す中で文章の書き方の基礎を固めさせ、全教職員による個別指導につなげていく。	B	B		
		各種模擬試験を受けるよう指導し、それらに対して目標設定・受験・受験直後の復習・答案返却後の復習のPDCAサイクルを確立させる。その道のりにおいてWEBテスト、動画などを効果的に活用できるよう導く。	B	B		
		入試の傾向や対策について進路部通信や研修会を通じて、教職員・生徒への発信と情報の共有に努める。	B	B		
	学校紹介を希望する3年生の、就職内定率100%を目指す。	2年生の秋から就職指導を開始し高校生の就職制度を理解させ、生徒の希望や適性に応じた指導を学年部や外部機関と連携して実施する。また、就職に向けて基礎学力と社会の一般常識を身につけさせる学習に取り組ませる。	B	B		
		社会人としてのマナーの習得や基本技能の習得や対人能力の向上を図る指導を行う。さらにロールプレイングを用いた練習によって実践力をつけさせる。	B	B		
		面接対策を徹底する。身だしなみや入退出などの礼儀作法、言葉遣いなど粘り強く指導する。また、面接官として社会人を招聘した実践的な模擬面接を設定する。内定後も社会人になるという自覚を持たせるよう指導を継続する。	A	A		
	進路希望実現率が100%になるように、1、2年生に対し早期から具体的な見通しを持たせる。	生徒の進路希望を早期に把握し、高校3年間を見通した進路実現への道筋を考えさせる。短期・中期・長期的目標の立て方をレクチャーし、自分で計画的に学習する基礎を固める。他分掌と連携し、毎日の学習・学校生活を大切にすることの取り組みや進学補習・夏期進学セミナーなどを充実したものにさせる。書く力を育てるため、小論文ステップワーク等を活用する取り組みを進める。	B	B		
		進路別・分野別説明会の実施や進路部通信の発行などにより適切な情報提供を行い、進路に対する生徒の意識を高め具体的な見通しを持たせる。2年生の3学期までに生徒が自らの志望を宣言できるように導いていく。	B	B		
		ICT教材や学習支援サービスを充実させる。	C	B		
	学校保健 学校安全教育 特別支援 (保健部)	生徒を理解し、他分掌や専門家や関係機関と協力して支援の充実を図る。	様々な課題や不安を抱える生徒・保護者に対し、スクールカウンセラーや関係機関と連携を図り、指導・支援の方法を担当・教科担当者と共に共有し、支援体制を整える。	B		B
		生徒の健康についての意識を高める。	薬物乱用防止教室や性教育講演会を実施し、適切な行動選択や意思決定が可能な生徒の育成を図る。また、健康診断等の事後指導に力を入れ、自身の健康についての生徒の意識を高めるよう試みる。	B		B
環境問題・環境美化に対する生徒・教職員の意識の向上を図り、安全で快適な学校環境の整備に取り組む。		公共の場である学校で、掃除担当者だけでなく一人一人が分別・清掃の意識を持って環境美化に日々取り組むように指導する。昨年度に引き続きゴミステーションでのゴミの分別指導、美化週間でのゴミ分別・削減の取り組み、ペットボトルキャップリサイクルに取り組む。	B	B		
特色推進 広報活動 ICT教育 読書指導 (総務企画部)	学校内外へ本校の特色や教育活動を発信し、ホームページや公式SNSなどを通じて広報活動を充実させる。学校と地域・保護者等との相互の信頼形成のために、本校の教育活動について広く情報提供する。	学校ホームページや公式SNSを随時更新して、本校の教育活動や生徒の様子等について発信を行う。	B	B		
		学校の内外に向けて丁寧な情報提供を行い、保護者や地域、中学校から信頼される学校を目指す。	C	B		
	1人1台の学習用端末導入を円滑に進め、端末の管理・整備を行い、生徒・教員のICT活用をサポートする。教職員へのICT教育への関心・意欲やICTのスキルを高めるための研修を行う。	学習用端末やアプリ、各アカウントの管理やトラブルの対応を行い、生徒と教員が円滑に授業でICT活用できるようにサポートする。また、利用規程や使用方法を周知し、情報モラルの向上を図る。	C	B		
		学校全体でICT活用が進むよう研修会等を通じて、操作方法や活用方法・活用事例の共有を行う。	B	B		
	生徒の読書離れ・活字離れの現状の改善に努め、利用者の視点に立った図書館運営を行う。	図書館だよりや図書委員会だよりを定期的に行い、生徒おすすめ図書などの情報を提示する。また、図書委員会の活動を通じて、本の魅力を発信する。	C	C		
教科での図書資料活用の推進や一斉読書週間の実施を通して、本に触れる機会を確保する。	C	C				

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
			中間	最終	総合	
教育環境整備 (事務部)	・安心・安全な施設設備の維持管理を図る。	定期的に施設設備の点検を実施し危険箇所等の早期発見、早期対応に努めるとともに、安全に施設設備を使用できるよう維持管理に努める。また、かねてからの懸案事項であったグラウンド施設等の改修工事(防球ネットの新設・クラブボックスの撤去)や普通教室の空調設備更新が着工されるが、日常生活と並行しながらの工事となるため、関係各所との調整を図る。	B	B		○施設設備の日常点検や台風通過後等の臨時点検により安心安全な施設維持管理を行うことが出来た。空調設備の改修については、授業を第一に考えて工事を進めるよう尽力した。防球ネットの改修については、グラウンド施設について、できるだけ学校の要望を反映できるよう業者と連絡を密に取ることに努めた。日常の業務と並行で行うため、各教科・分掌の協力を仰ぎながら進めることができた。
	・特色ある教育活動や広報活動等の実施のため、学校予算を効率的に執行する。	新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、通常の学校生活が取り戻せるよう教育環境を整備するとともに、各分掌・教科との連携をとりながら効果的な予算執行を図る。	B	B	B	○特色ある教育活動を進めるために外部人材の活用や教材の整備を図った。教科・分掌から生徒の様子を見ながらの新たな試みの要望にもできるだけ応えた。年度当初から希望を把握することができればさらに効率的な活用もできたのではないかと考える。
	・修学支援	援護制度について周知を図り、生徒の修学や希望進路の実現を支援する。	B	B		○各学年部や進路指導部等と連携し、在学中の修学援助制度や進学後の各奨学金制度について、周知に努めた。様々な事情から必要書類の提出が遅延する生徒が多いため、さらなる対応が必要である。進学後の奨学金については、学生支援機構の新たなアドバイザー派遣制度を取り入れることとし、今後の活用も検討している。
第1学年部	社会をつくる一員になることを展望しながら、あたりまえのことをあたりまえにできるように促す	・時間や期限等を守って行動できるように促し(遅刻・欠課をしない、ベル着、提出物の期限を守るなど)欠席・遅刻過多による原級留置をできる限り減らす。 ・プライベート、オフィシャル、フォーマルの違いを意識させながら、TPOに応じた身だしなみができるように指導する。 ・スマホやiPadの使用ルールを理解し、守れるように促す。SNSとのつき合い方についても考えさせる機会を作りながら、正しく使用できるよう促す。 ・以上のことについて、他分掌と連携しながら、また保護者の理解を得ながら日々の指導に当たる。	C	B		○時間を守る生徒が比較的多いが、学校生活に慣れるとともに遅刻や欠課が目立つようになってきた。身だしなみについても同様で、声を掛けてもやりやすそうとする生徒が増えている。 ○様々な事情により転退学する生徒がいたが、早めの三者面談や家庭訪問をしつつ丁寧に話を聞き、一緒に今後の方向性を考えることができた。 ○授業中の携帯電話の扱いや装飾品指導に関しては、生徒指導部と連携しながら段階を踏んだ指導ができていた。一部に歯止めのかかない生徒もおり、今後どう指導していくかが課題である。校内巡回指導も行った。また生徒への個別指導を丁寧にすることができた。 ○SNSとのつきあい方について、実態把握に努めつつ今後も指導していく必要がある。
		・高校における学習の方法を身につけさせる。指示をよく聴き、主体的に授業に参加するとともに、日常的に学習する習慣を身につけるよう促す。つまづきを抱える生徒に対しては個別指導も含めて丁寧に指導に当たる。 ・ことばの力の育成に努め、思考や感性を育む。HRなどを通じて様々な文章を読ませ、多様な考え方を知る機会をつくる。また読書を通して様々な作品に触れるよう促す。正しい原稿用紙の使い方、正しい表記で用紙いっぱい書くように促す。相手に伝わるように表現を工夫するよう促す。 ・進路指導部と連携しながら、卒業後の進路についての情報提供を適宜行い、卒業後の展望が持てるよう促す。	C	B	B	○授業については、一部の講座やクラスで集中しにくい現状があったため、個別指導を含めて様々な方法で指導を試みた。考査前補充には多くの生徒が参加しており、指導を拒む生徒は少ない。しかし授業以外での学習に力を入れないなどで定着が不十分な生徒がいるため、教科担任と連携しながら進級、単位認定を目指す指導を丁寧にに行った。 ○文章を書かせる機会を設け、機会あるごとに学年通信などでのフィードバックを行った。進路指導部主導で丁寧な小論文指導(模試)を行うことができた。今後も様々な文章を読ませる機会を設けていきたい。 ○進路指導部主導の下、進路について考える機会を適宜設けることができた。明確な進路目標を持つ生徒もいれば、大学進学を口にしながら模試を受けようとする生徒、進学補習に積極的に参加しない生徒もいる。全体指導が入りにくいこともあり、できかぎり個別の声かけを行った。
		・お互いが気持ちよく過ごすことができるように、挨拶、場面に応じた言葉遣い、清掃活動やゴミの分別ができるように促す。また下足箱やロッカーがきちんと自分で管理できるよう呼びかける。 ・人権について様々な機会に考えさせ、正しい理解をするとともに自分の言動につなげることができるよう指導する。また来年度の研修旅行に向けて、教科とも協力しながら適宜平和学習に取り組む。 ・行事や部活動、生徒会活動や委員会活動に積極的に取り組むよう促すとともに、自分とは合わないと感じられる相手とも協同してものごとに取り組むことができるよう指導する。 ・各分掌や各部活動顧問、保護者と連携しながら、生徒の実態把握に努め、細やかな指導に生かす。特別な支援の必要な生徒についての情報共有を図る。	C	B		○挨拶や清掃、下足箱やロッカーの使用状況は概ね良好であるが、ロッカーの上に私物を置いたり、端末の扱いが雑であったりという点については引きつづき指導する必要がある。 ○いじめや人権侵害に当たる重大な事案は起こっていないが、SNSの使い方も含め、引きつづき人権意識の高揚を図る必要がある。後半には研修旅行に向けての探究活動や平和学習を実施することができた。 ○生徒会活動や行事への取り組みは概ね積極的で、生徒の出席状況もよい。次年度はHR運営委員会の活性化について考えたい。他人と良好な関係を築くという点については、今後も様々な活動、行事に取り組む中で経験を重ねさせたい。 ○全般的に個別対応が必要な生徒が多く、担任の負担は大きかったが、保健部を中心に各方面と連携しつつ、丁寧な対応をすることができた。
第2学年部	学校生活における様々な場面で、規範意識を持ち、何事も全力で取り組む生徒を育成する。	・よりよい人間関係を構築させるために、学校行事などに主体的に取り組むよう促す。 ・生徒の良い面を見つけ伝えながら、生徒の自己肯定感を高められるようにする。 ・あいさつをすることや時間、ルールを守ることに学年で一致した指導を行っていく。	B	B		○学校行事等に主体的に取り組むよう促し、生徒も取り組むことができていた。また、学年団で生徒の情報共有も積極的にを行い、指導に生かすことができた。ただ、遅刻する生徒なども多く、遅刻に対する指導も早い段階で進めるべきであった。また、生徒への指導を行う際にはクラスの枠を超え、学年団で学年全体の生徒に対して、様々な面談や指導を行うことができる体制を更に構築していく。
		・生徒と日常的に面談等を行いながら、日々の授業の大切さを伝える。 ・教科担当者と密に連携しながら、生徒の情報把握に努める。	B	B	B	○日々教科担当と連携を図りながら授業の大切さや生徒の情報把握に努めてきた中で、進路に向けて具体的に行動する生徒も現れた。一方で欠課時数が多い生徒が多数あった。特に1限目の欠課が非常に多く、早い段階で食い止めるような働きかけが更に必要である。また、授業に集中できない生徒に対して関係分掌とも連携を図り対応したが、より早い段階で連携することができないか検討が必要である。
第3学年部	成人を迎えるにあたり高校生としての振る舞いや社会性、規範意識を育成する。全員の希望進路実現を目指す。	・時間やルール、マナー等、高校生としてだけでなく社会人としての振る舞いや規範意識を育成するために関係分掌と連携しながら粘り強く指導する。 ・クラスでの協働活動を通して自分の可能性に気づくことで自己肯定感を高め、周りの人を支えたり、自分自身も他者も「幸せ」になる環境づくりを支援する。	C	B		○卒業や進路実現に向けて進路指導部や生徒指導部と連携し、様々な場面で時間やルールを守ることの重要性を継続して指導したので、講演会や説明会、学年集会などでは身だしなみを整えた状態で時間通りに始めることができた。3学期に学年で行った遅刻指導についてはある一定の効果が出ており、年間を通して実施しても良かったのではという課題が残った。 ○文化祭では仲間と協力しながら自分の役割を理解して、クラスのために努力することができた。進路に向けて多くの生徒が仲間とともに互いを認め合い、協力して高め合うことができた。
		・日々の授業を大切に、主体的に学習に取り組む習慣と自学自習をする習慣をつけるために教科担当者と連携して指導する。 ・進路指導部と連携し、進路関係の資料や情報を共有することで、個人面談を充実させる。また具体的な進路先を早期決定できるように支援し、希望した進路の実現を図る。	C	B	B	○1学期中間考査後に成績不振者へ卒業と進路実現への意識を高めるために教務部と学年で指導を行ったが、成果があまり見られなかった。 ○進路指導部からの情報や資料を面談で活用し、進路実現への意識を高め、ほとんどの生徒が進路目標を決定して努力することができた。
		・学校行事を中心に最上級生として主体的に行動し、学校全体を正しい形で牽引する力を育てる。 ・進路に向けての取り組みや部活動など、努力している人を認め、応援し、励まし合える集団の育成に努める。	B	B		○文化祭では主体的に取り組む、演劇やパフォーマンスなど完成度の高い発表をすることができた。体育祭では話を聞く態度や仲間を応援する姿勢など、最上級生として良い雰囲気をつくることができた。 ○受験や就職試験に向けて努力している生徒がアドバイスし合ったり、合格した生徒をたたえ合うなど良い雰囲気をつくることができた。合格が決まった一部の生徒に浮ついた雰囲気が出ていたので、規律ある学校生活を送ることができるよう卒業まで継続して指導を行った。

評価の基準 A:十分達成できている。(目標以上の成果が得られている。) B:ほぼ達成できている。(ほぼ目標通りの成果が得られている。) C:達成できているとはいえない。(成果はあったが、目標は達成できていない。) D:ほとんど達成できていない。(ほとんど成果が得られていない。)

学校関係者 評価委員会 による評価	<ul style="list-style-type: none"> ・おおむね達成できており、適切な課題設定と運営がなされている。 ・目標設定では、評価の支えとなる根拠が示せるよう、数値目標も取り入れながら設定するとよい。 ・地域は洛東高校を応援している。自然環境、地の利に恵まれており、地域の使える人材を活用し、更に教育活動を進めてほしい。 ・夢や楽しさがある高校生活を望んでいる。両立を目指すにはどうすればよいかという視点でも、学校改革を進めてほしい。 ・洛東高校は頑張っている。イメージもよい。キャリア教育につながる授業も多く展開されている。これからも積極的に協力していきたい。
次年度に向けた改善の 方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・少しずつであるが成果が見られる進路指導について、さらなる充実を図りたい。 ・次年度は3学年1人1台端末が揃うため、その活用について、さらなる研修と全教員が実際に教育活動で利用することを推進する。 ・スクールポリシーに則った学校のグランドデザインの明確化を図り、各分掌が連携した学校運営を図る。 ・学習習慣の定着や基本的な生活習慣(遅刻や身だしなみ等)の指導を各分掌が連携して行い、自学自習の習慣を確立するとともに、自らの未来を具体的にデザインし、進路実現を図る体制を強化する。 ・効果的な広報活動を行い、選ばれる学校づくりを進める。 ・「働き方改革」を具体的に進めるため、各分掌と協力しながら業務改善を進める。〃〇